

## 県連・商工会等による支援の動き 3/1～3/10

### 3/9「復興応援トラックマーケット」：大分県佐伯市で開催

東日本大震災で被害を受けた中小企業を支援しようと、全国を巡回して東北地方の企業などが製造した商品を販売しているトラックが、9日大分県佐伯市の道の駅を訪れた。

「復興応援トラックマーケット」というこの取り組みは、東日本大震災で工場や取引先が被害を受けた東北6県と茨城県の中小企業を支援しようと、全国商工会連合会が行っているもので、トラックは、被災地の中小企業が製造している商品を積んで、先月11日から全国の道の駅を回っている。大分県佐伯市の「道の駅やよい」の駐車場で店を広げたトラックの荷台や特設のテントには、福島県の喜多方ラーメン（キタカタ）や、宮城県の牛タンといった東北の名物の品などが並べられ、訪れた客が次々と買い求めていた。

宮城県のうどんを購入した佐伯市の男性は「購入することが支援となり、被災した人が少しでも前向きなってくれるとうれしいです」と話した。

この取り組みを担当している平太歩（ヒラタアユミ）さんは「これからも全国の人に購入して頂いて、継続的な支援になってほしいです」とのこと。

「復興応援トラックマーケット」は、あすは佐賀県で、震災から1年となる最終日のあさっては長崎県で開催される。

---

### 3/8「復興応援トラックマーケット」：岡山県津山市で開催

トラックで全国を巡りながら、東日本大震災被災地の特産品を販売する「One Heart Now “復興応援”トラックマーケット」が、津山市宮尾の道の駅「久米の里」で開かれ、多くの買い物客でにぎわった。

復興支援の一環で、全国商工会連合会（東京都）が、東北6県と茨城県の中小企業などが製造した特産品をPRしようと企画。「日本中のハートを 今こそ東北に届けよう」を合言葉に、2月9日から全国の道の駅などを巡って販売しており、県内では津山市だけの開催。

「OneHeart号」と書かれたトラックの内部や周辺に、喜多方ラーメン（福島県）や南部せんべい（岩手県）など約40種類の特産品を並べて販売。販売開始と同時に、市民らが詰めかけ、すぐに売り切れる品物もあった。

「盛岡冷麺」などを買った津山市国分寺、団体職員講元しおりさん（40）は「津山では手に入らない珍しいものばかり。購入することで支援につながればうれしい」と話していた。トラックは、四国、九州地方の道の駅などを巡回し、11日に長崎県でゴールする。

---

### 3/8「復興応援トラックマーケット」：佐賀県太良町で開催

東日本大震災の復興支援を目的に、東北地方の特産品などをトラックに積んで全国各地で販売するイベント「One Heart Now “復興応援”トラックマーケット」が10日午前10時から、太良町の道の駅太良「たらふく館」で開かれる。

全国商工会連合会が被災地の中小企業の復興を応援しようと、2月の埼玉を皮切りに全国22カ所の道の駅を回っているイベント。当日は、福島県の「喜多方ラーメン」や宮城県の「甘ったれうどん」など東北6県と茨城県の特産品を販売する。販売は午後5時まで。

---

### 3/8 兵庫県・丹波市商工会などが支援活動を写真で紹介

丹波市商工会、自治会長会などで行く同市東日本大震災復興支援事業実行委員会は11日午前10時から、同市市島町上田のライフピアいちじまで、市職員、市民による被災地支援の様子を紹介する写真展を開く。ボランティア活動などを撮影した約60枚のほか、同市と被災地の小中学生がやりとりした手紙も展示する。

震災前の宮城県石巻市などで撮影をした映画「エクレールお菓子放浪記」が会場で上映されるのに合わせて企画した。展示する写真は、丹波市職員らが宮城県気仙沼市や南三陸町などで行った捜索活動や給水支援などのほか、市民ボランティアによる写真洗浄、泥かき作業などが収められている。また、市内の約15小中学校が被災地に送った手紙とその返信を通して子どもたちの交流も紹介する。

午後4時半まで。午後0時半から、東北地方の食材を使用した「がんばっぺ汁」を無料で振る舞う。先着400人。

---

### 3/7「復興応援トラックマーケット」：山口県美祢市で開催

美祢市の道の駅「おふく」で7日午前10時から、東日本大震災で被災した東北地方などの約50社が製造した約90商品を販売するトラック市が開かれる。

被災地の企業を活気づけようと、全国商工会連合会が2月9日～3月11日にトラックに商品を載せて全国25都府県を巡回している活動の一環。県は19番目の来訪となる。

50社は東北6県と茨城県の企業で、福島県の喜多方ラーメンセットや岩手県の南部せんべいなど500～1000円の商品が中心。

---

### 3/7 茨城県・高萩商工会が復興支援イベントを開催へ

高萩市商工会（沼野辰三会長）は10日、市民の一層の復興を支援しようと、震災復興支援イベント「高萩まちなかワンダーランド」をJR高萩駅前のイトーヨーカドー跡地で

開催する。

風評被害が続くJAに協力を呼び掛けて「JA村」を設置し、地元産野菜の販売。午前10時と午後2時からの2回、それぞれ先着250人に野菜詰め合わせをプレゼントする。特設ステージでは、地元の大和太鼓や松ヶ丘保育園と太鼓さくら組、県警音楽隊による演奏のほか、「ノブ&フッキーものまねショー」や「渡辺真知子ミニコンサート」が会場を盛り上げる。

そのほか、「大わんこしいたけうどん大会」や飲食業者や近隣市町商工団体などによる「テント村」など、家族で楽しめるイベントが用意されている。開催時間は、午前9時20分から午後3時まで。雨天決行。市文化会館周辺駐車場と市総合福祉センター駐車場からシャトルバスを運行する。

---

### 3/6 福島県・桑折町商工会が「桑折宿復興大市」を開催

全国各地のB級グルメなどが集まった「桑折宿復興大市」が4日、桑折町の福島蚕糸跡地で行われた。

桑折町商工会が主催。会場には宮城県の「石巻焼きそば」や宮崎県の「みやざき地頭鶏（じどっこ）」、浪江町の名物「なみえ焼きそば」など約40店が出店し、各店に長い行列ができていた。相馬双葉漁業協同組合は、震災前にとれたシラスやツブ貝の串焼きなどを販売。同漁協の高橋勝史さん（33）は「来場者に放射能に関する意識のアンケートも行った。消費者と直接ふれあえて良かった」と話していた。

会場の隣には同町や浪江町の住民が暮らす仮設住宅もあり、仮設住宅からも多くの人を訪れた。実行委員長の板垣泰一さん（50）は「慣れない生活で、楽しむ場所も少ないと思う。復興市で、もやもやした気持ちを晴らしてほしい」と話した。仮設住宅で暮らす浪江町津島の三瓶文夫さん（75）は「天気も良く、久しぶりに会えた浪江の人もいて楽しかった」と笑顔で話した。

---

### 3/6 青森県・三沢市商工会が復興支援イベントの一環として震災写真展を開催

東日本大震災から間もなく1年になるのに合わせ、三沢市のスカイプラザミサワで3日、震災写真展が始まった。市や三沢基地の米軍、航空自衛隊が復旧支援活動で撮影した写真など合計300枚あまりを展示。震災で大きな被害を受けた三沢漁港のほか、これまであまり知られていなかった震災直後の基地内や米国人の様子なども紹介している。

写真展は、市商工会の復興支援イベントの一環。スカイプラザ2階に設けた展示コーナーには、米本土から到着した支援物資を大型輸送機から降ろす場面や、緊迫した雰囲気にも包まれた基地司令部の写真などが並び、県外被災地との交流で、岩手県久慈市の展示コーナーも設けた。訪れた市民は写真を前に、震災直後の惨状を振り返っていた。

津波でめっちゃめっちゃに壊れたトラックの写真を見つめていた月舘俊雄さん（64）＝同市大津4丁目＝は「津波が来る少し前まで、このトラックで漁具を運んでいた。片付け作業は大変だったが、兵隊だけでなくアメリカの女性や小学生たちが手伝いに来てくれてうれしかった」と、しみじみ語った。

写真展を含む復興支援イベントは18日まで。この間、スカイプラザでは毎週土、日曜日に軽食コーナーや無料のミニコンサートが行われる。

4日のステージに出演した同市出身で東京都在住のシンガー・ソングライター山本フミヒトさんは「これからも被災地を元気づけるイベントに参加したい」と話していた。

---

### 3/6 東京都・小金井市商工会などが復興を後押しする「夜明け市場」をオープン

被災地の特産品を販売して復興を支援しようと、「夜明け市場」と名づけられた店が21日、小金井市本町1丁目にオープンする。運営するのは、市や市商工会などで作る「東日本大震災復興応援小金井プロジェクト協議会」。都の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」で助成金を得て活動しており、これまでも、福島県いわき市や、風評被害で観光客が激減した千葉県鴨川市をバスツアーで訪れるといった支援活動を続けてきた。

店舗名は、被災した店がJRいわき駅近くに集まって運営している飲食店街「夜明け市場」からとった。いわき市産のコメを販売するほか、現地の復興状況を伝える写真も展示する予定だ。

「プロジェクト協議会」で副会長を務める斉藤浩さん（55）は「被災地を訪ねて、継続的な支援が必要だと感じた」と言う。「商売をしているもの同士、無理せずに、息長く続けていきたい。現地の元気な人たちと付き合っ、こちらも元気になります」

開店に先立ち、1、2の両日には、JR武蔵小金井駅南口前でいわき市などの物産販売会が開かれた。いわき市のトマト、鴨川市の干物、岩手県久慈市の短角牛の肉まん……。訪れた人たちは次々と商品に手を伸ばし、買い求めたその場でほおぼる人もいた。黒砂糖とクルミを小麦粉で練った皮で包んだ団子、野菜やきのこが入った久慈市の郷土料理「まめぶ汁」も振る舞われた。2011年11月、兵庫県姫路市で開かれたご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」に出品されたものだ。

いわき市観光物産課の古川孝昭さん（31）は「このような場で宣伝させていただけるのはありがたいです。『いわきは大丈夫』ということをPRし、イメージ回復や商品の販路拡大につなげたい」と話した。

---

### 3/6 「復興応援トラックマーケット」：愛媛県今治市で開催

東日本大震災被災地の特産品を積んだトラックが全国を巡る「復興応援トラックマーケット」が5日、今治市上浦町井口の多々羅しまなみ公園であり、「復興への一助に」と買

い物を通じて支援の気持ちを寄せる地元大三島の住民や観光客らでにぎわった。

被災地の中小企業を応援しようと全国商工会連合会が企画。2月9日から3月11日まで、中型トラック2台が計25都府県の道の駅などを訪れている。マーケットには数十社が出品。売り上げはすべて出品企業に還元する。

会場では同連合会スタッフら10人が福島県の喜多方ラーメンや宮城県の牛タンカレー、岩手県の銘菓「かもめの玉子（たまご）」など、東北6県と茨城県の産品約50種を販売した。

大三島町宮浦の主婦菅孝子さん（73）は「自分にできる支援は小さなことしかないが、被災地の力になれば」と宮城県の「甘ったれうどん」などを購入した。

---

### 3/5「復興応援トラックマーケット」：高知県南国市で開催

東日本大震災で被災した地域の特産品を売って支援につなげようと、「復興応援 トラックマーケット全国キャラバン」が4日、南国市左右山の道の駅「南国風良里」であった。宮城、岩手、福島など東北6県と茨城県の名産品約50種類が、店舗風のトラックと仮設テントにずらり。訪れた人たちは、珍しい産品を手にとっては何品も買っていた。

全国商工会連合会（東京都千代田区）が、復興支援の一環で企画した。2月9日から3月11日までの予定で、全国25都府県28都市を巡回している。被災県の商工会に呼びかけて出店者を募り、売り上げはすべて出店者の収入になる。4日は、仙台市の「牛タン」や福島県の「ゆべし」に「喜多方ラーメン」、岩手県の「かもめの玉子」、茨城県の「干し芋」などが並んだ。商品を補充しても、すぐに売り切れてしまう品もあった。

南国市内の浜口重夫さん（69）は、昨年10月に岩手県の釜石市や宮古市田老地区などを訪ねたという。「こうやって東北の産品を買うことで、被災地を応援したい」と岩手県の「南部せんべい」を買い求めていた。

---

### 3/4「復興応援トラックマーケット」：香川県高松市で開催

東日本大震災の被災地の復興を支援するため、東北地方などの特産品をトラックに積んで全国で販売する「One Heart Now “復興応援”トラックマーケット」が3日、高松市香川町のショッピングセンター「ウイングポート」で開かれた。

全国商工会連合会（東京都）が企画。四国での販売は今回が初めてで、東北6県と茨城県の食品約90品目を積んだトラックが来場。午前10時の開店直後から多くの買い物客らが訪れ「牛タンカレー」（宮城）や「かりんとうまんじゅう」（岩手）などを手に取って品定めしていた。

宮城県の「甘ったれうどん」を購入した近くの住谷照美さん（61）は「東北のうどんを食べるのは初めてで、さぬきうどんとどう違うのか楽しみ。おいしいものを買って復興

を支援できるならステキですね」と話していた。トラックは3月11日までに25都府県を巡る。

---

#### 3/4「復興応援トラックマーケット」：福岡県粕屋町で開催

粕屋町のイオンモール福岡では、東日本大震災で被災した東北5県と茨城県の物産を販売するイベント「One Heart Now “復興応援”トラックマーケット」が始まった。4日も午前10時～午後5時に行われる。

全国6都市を4トントラックで回り、復興支援を呼びかけるイベントの一環。全国商工会連合会（東京）が企画した。福岡は5都市目。

17事業者がブースを設け、岩手県の南部せんべいや福島県の焼きウニといった特産品やコロッケ、焼きそば、菓子などが並んだ。

海産物卸売りを主に手掛ける第3セクター「陸前高田地域振興」（岩手県陸前高田市）は、津波で工場や事務所が流された。なんとか確保できたという塩漬けワカメやおつまみ用の昆布などを置いた。「東北の海産物は風評被害に苦しんでいる。自社で放射能を検査し、安全を確認しているので、多くの人に食べてもらいたい」と同社の鈴木祐輔さん（28）は訴えた。

---

#### 3/3 熊本県・山鹿市商工会が地元高校と組み地産大豆を使った「ホットケーキミックス」で復興支援

山鹿市商工会と鹿本農高は2日、東日本大震災復興支援のため、地元産大豆を原料に開発した「みさを大豆粉ホットケーキミックス」の支援報告・試食会を市役所で開いた。

鹿本農高は昨年7月、近くの保育園や小中学校、保護者らに呼びかけ、在来品種「みさを大豆」を栽培。250キロ収穫し、市商工会青年部と連携してホットケーキミックスに加工、支援物資にした。

報告・試食会には中嶋憲正市長らが出席。生徒代表の生活科学科2年、木山なちかさんが「これからも『みさを大豆』を栽培し、後輩たちに復興支援を引き継いでいく」と経過報告と決意を述べた。中嶋市長は「山鹿市民の心のこもった支援物資ができあがった。被災地にしっかり届けてほしい」と激励した。

大豆粉は1500袋（1袋250グラム入り）生産。1000袋を支援物資、500袋は1袋400円で10～11日、物産館の水辺プラザなどで販売し、製造加工費に充てる。

支援物資は26～28日、生徒や父母らが宮城県名取市の宮城県農業高校や福祉施設に届ける。

---

3/2 茨城県・銚田商工会青年部が震災復興イベント収益金で保育所に手作り帽子掛けを贈呈

昨年秋に行った震災復興イベントで集めた収益金を役立てようと、銚田市商工会青年部（小橋一男部長）は1日、銚田市立第一保育所と第二保育所の園児に手作りの帽子掛け20台を贈った。原発事故で多くの町民が町外避難を余儀なくされている福島県浪江町にも収益金の一部を贈ることにしている。贈呈式は第一保育所の園内で行われ、小橋部長が「おじさんたちは仕事を終えてから帽子掛けを手作りしました。みんなで仲良く使ってください」とあいさつ。部員が年長組の園児に木製の帽子掛けを手渡した。

第二保育所の園児は、東日本大震災で保育所の建物と園庭が大きく損壊したため、3月まで第一保育園に通っている。帽子掛けのうち10台は、復旧工事が終了後の4月から第二保育園で使われる。

同青年部は昨年10月、市内の鹿島灘海浜公園で、東日本大震災からの復興に寄与しようと、「”復幸”商工青年祭」を開催。このイベントには避難生活を送っていた浪江町民も参加してB級グルメとして知られる浪江焼きそばを出店。イベントの収益金が20万円ほどになった。収益金は折半して市内の保育園児と浪江町に贈ることにしていたが、「当日が荒天で収益金が予想より少なかったので、保育園児分は手作りし、園児がいつも使う用具を贈ることにした」と小橋部長。

帽子掛けは材料を購入し、青年部の部員がそれぞれ仕事を終えてから組み立て作業を行った。第一保育園には1月下旬、60メートル分の渡り廊下も寄贈。これも材料を持ち込んで、部員が保育所内で組み立てた。

---

### 3/2 「復興応援トラックマーケット」：岡山県津山市で開催

東日本大震災の被災地の特産品を積んだトラックが全国を巡回販売する「復興応援トラックマーケット」が1日、津山市宮尾の道の駅・久米の里で開かれ、市民らが復興の一助にと商品を買求めた。

全国商工会連合会（東京都）が企画。2月9日に東京を出発し、3月11日の長崎まで計25都府県を回り、東北6県と茨城県の計57社137種の商品を販売する。

同道の駅では、約40種を販売。ご当地B級グルメの祭典「B-1グランプリ」でも登場した宮城県の「油麩（ふ）丼」を家庭で楽しめるセットや、福島県の喜多方ラーメン、岩手県の焼き菓子などが並んだ。大勢の客でにぎわい、お気に入りの品を買求めていた。

友人と訪れ、菓子類を購入した同市領家の真名子洋子さん（69）は「もうすぐ震災発生から丸1年。少しでも復興の力になればと思って買いました」と話していた。